

# ファームイン



新しい形を模索する中で見つけたファームイングリーンツーリズムとの出会いは、ほんの小さなきっかけでした。

何気なく参加したフォーラム。異業種の方たちが語り合う「十勝の魅力」、「農村の魅力」、その中にヨーロッパの農村の紹介がありました。のどかな農村景観の中で、酪農を営みながら小さな交流を仕事とするファームイン。そして、それが農業のひとつの選択肢でもあることを知ったのです。

結婚した当時、昭和50年は、皆一様に生産拡大に向かっていった時代でした。牛舎を増築、乳牛を購入し、大きなサイロを建て、大型トラクターに買い替え、土地を拡大していったのです。子どもを育てながら、夢中で走り続けました。それから10年、15年経って、自分たちの中で、疑問を抱き始めたのです。「何か納得できない・・・」。耕地面積も少なく、施設も足りない、準備が不充分の中での規模拡大には、無理が出てくるはずでした。乳牛の事故や疾病にもつながっていききました。

そんな中で知ったのがヨーロッパ型の小規模ではあるが、ゆとりのある、これなら持続できる」という確信の持てる酪農のスタイルでした。もともと、私自身が東京から農業実習生として来道してきたことで、友人、知人が訪れてくれましたが、当時はわが家も狭かったので泊めることができませんでしたが、農村に宿泊できる所がないのを不思議に思いました。広大な牧草畑、ゆったりと流れる空気、美味しい水、夜ともなると溢れる星美玉、これをとってもずばらしい場所だと感じていました。

このフォーラムをきっかけにわが家の目標は、「規模拡大」から酪農を活かしながら「グリーンツーリズム」を取り入れたスタイルにしようと考えました。酪農も昼夜放牧での経営スタイルになり、心身ともにゆとりが生まれました。各地で開

かれる研究会、勉強会には、機会があれば参加しました。

グリーンツーリズムとは、「緑豊かな農山漁村で、その土地の人々、生活、文化などに触れ、ゆとり滞在すること」と言われています。ファームイン、農家レストラン、直売、農業体験、教育ファームなどがあります。その中で、私たちは、自分たちなら取り組めるとファームインを選んだのでした。

町の海外研修で、ドイツの視察へも行かせてもらいました。その後、農林水産省の支援事業で行われた「グリーンツーリズム専門家養成講座」の1期生としてファームイン経営を学び、多くの仲間と、実現への自信を得たことで、平成8年8月から1日1組だけのファームインを始めることができました。



湯浅さん夫妻



可愛い看板が宿泊者を出迎えてくれる



右の玄関がファームインへの入口



ファームステイ用の部屋。風呂・トイレ・台所があり、ゆったりと農村空間を楽しむことができる

## 宿泊者との出会いで教わったこと

1組だけの宿泊施設で、経営が成り立つのだから。そんな不安のスタートでしたが、田舎を求めた人たち、個性的な旅を求める人たちは、思いのほか多いことを知りました。この6年間で延べ1,600人も人が、この小さなファームインを訪れました。みんなそれぞれに、自分のスタイルで時間を楽しみ、農村の自然を満喫していきま。その出会いのなかで、教えられたことがいっぱいあります。

ひとつは、訪れた人には食べものが、どこでどのように作られているのかわからない人が多いということでした。農業人口の減少は、生産する人食べる人の距離を遠くしたのかもしれない。ファームインの食事は、とてもシンプルで、あつたかーいものが多いのです。畑から採ってきた新鮮な野菜を中心に、季節のもの、地元の食材を提供しています。テーブルを囲みながらの美味しい食卓は、いつの間にか、食べるもののお話しになり、時間がたつのも忘れてしまいます。こんな時間を共に過ごした人は、自然に農業・農村の応援者になっていくようです。

2年目くらいから口コミで、ご家族連れが来てくれるようになりました。その方たちの話を聞くと、土のない都会、動物の飼えないマンション暮らしといった子どもたちが、土に触れ、動物と触れ合っただけで、いかに「ぬくもり」を求めているのかということを感じます。

そんな親御さんたちの原風景に、「ふるさとの思い出、親戚や祖父母に農業に関わっていた人がいて、なつかしく・・・」ということがあつたようです。ここで過ごす時間のなかで、子どもたちは生き生きと、目を輝かせて、戯れています。子どもたちの感性は、限りなく広がります。

農業・農村の可能性は、こんなことから教えられる。現在、教育ファームの認証を受け、積極的に子どもたちの受け入れを始めたのもこれがきっかけかもしれません。

教えられることのひとつが、地域の魅力です。住んでいると見落としがちな風景や、いつも食べていると感謝を忘れてしまいがちな美味しい、新鮮で安全な食べ物。訪れた人から教えられる魅力は、生産者に自信と誇りを持つことを、そしてこの景観を子どもたちにも残したい、そんな思いが強くなります。

そして、ファームインを始めて大きな喜びにつながったのが、「共に食べることは、共に生きること」を実感できたことではないでしょうか。ゆっくりした時間を訪れたゲストと共有しながら、心地良い空間でもある農業・農村に育てられています。

## グリーンツーリズムで農村と都市を結びつける

これらの交流を通して感じることは、「食」に対して多様なニーズが生まれてきているということ。現在、子どもたちの4割から5割がアトピー・アレルギーと言われるなかで、「食べ物」への関心も高くなっています。多様なニーズに応えられる、多様な農業を育てること。そして、交流を通して「ミニテーション」が生まれ、その信頼関係が「食の安心」を支えていけるのではないのでしょうか。

「食」と「農」のネットワークづくりが各地で始まっています。その窓口になるのが、心が通い合う関係づくり、グリーンツーリズムです。

そして、個性を活かし合い、認め合う農村の社会でありたいと願っています。

農業の現場も高齢化、担い手不足などの課題を抱え、過疎化が進んでいます。大きな農場、小さな農場があり、様々な年代の関わりで成長し、活性化していく社会でいられるように、仲間づくりを進めたいと考えています。小さな「農」の自立が、都市との共生共存で実現できることを、「グリーンツーリズム」で確信しています。

つっちゃんとう子の牧場のへや 湯浅優子

